

公益財団法人実務技能検定協会 令和5年度事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

I 事業の実施状況

本協会は、定款第3条および第4条に基づき、ビジネス実務に関する技能検定の実施により、ビジネス実務に対する学習意欲の喚起、職業教育の充実、および職業人の職業技能の向上に寄与することを目的として、以下の事業を行った。

【公益目的事業（公1）】

1 技能検定の実施

(1) 令和5年度における秘書技能、ビジネス文書技能、ビジネス実務マナー技能およびサービス接遇実務の計4種目の技能検定を、計画通り実施した（「令和5年度技能審査実施状況表」参照）。その結果、志願者合計は143,010名となり、前年度比88.0%（19,428名減）であった。

なお、秘書技能検定C B Tは、年度内の志願者合計は18,654名（2級14,984名、3級3,670名）となり、前年度比124.6%（3,682名増）という結果であった。また、令和6年1月15日から、新たに「サービス接遇実務検定C B T」2・3級を開始した（2級521名、3級244名）。

(2) 令和6年3月15日理事会において、「ビジネス実務マナー技能検定C B T」の開始について報告を行い、承認を得た。

(3) 新型コロナウイルスへの対応

令和5年5月8日に発出された「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更」に伴い、当協会策定のガイドラインを、①試験会場内でのマスク着用は受験者自身の判断に委ねること、②感染または感染の疑いがある受験者は「欠席」扱いとする（次回検定への繰り越しや返金を行わない）内容に改訂した。

(4) 令和5年度第1回検定から、デジタル合格証・合格証明書の発行を開始した（希望者には有償でカード式の合格証・用紙印刷をした合格証明書を発行した）。

(5) 「検定業務システム（ビジネス系4検定の受験者管理・団体管理・試験会場管理・試験管理・運用管理・ホームページ管理）」が、近年、システム面、運用面ともに複雑化、老朽化が顕在化し、コスト高をはじめ、検定業務、保守業務に各種の不具合が生じるようになった。これに関して、令和7年4月からの運用開始を目標に、新システムの開発、運用およびホームページリニューアルについて、委託先を選定することとなり、候補となる企業は6社に対して提案、見積もりを依頼した。

- (6) 令和5年10月に導入のインボイス制度について、試験実施に係る諸手数料を支払う（受験料と相殺）団体宛てに、当協会の登録番号を通知するとともに、団体の登録番号を収集した。

2 研究会・講習会の開催

(1) 秘書ビジネス実務教育担当初任者研究会（地方研究会）の実施

ビジネス系検定の普及・振興を目的として、ビジネス実務教育の担当初任者に対し、検定指導法等についての研究会を開催した。令和5年度は前年度に引き続き「オンライン」形式での実施とした。

5月12・13日 56名出席（東北、新潟・北陸、中部、大阪、沖縄を対象）

9月29・30日 50名出席（北海道、関東、中国・四国、九州を対象）

(2) 秘書検定・サービス接遇検定準1級面接試験実施担当者資格研修会の実施

秘書検定およびサービス接遇検定準1級面接試験実施担当者の能力保持を目的に、研修会を実施した。令和5年度は前年度に引き続き「オンライン」で実施した（3月1・2・3日 各検定とも175名参加）。

3 成績優秀者および成績優秀団体の表彰

令和5年度成績優秀者・優秀団体表彰式を、令和6年3月11日、アルカディア市ヶ谷（新宿区）において、受賞者49名（個人23名、26団体）および文部科学省等の来賓を含む計56名の出席を得て実施した。

各検定の表彰数

(個人)

検定	文部科学大臣賞	理事長賞	優秀賞	日本秘書クラブ会長賞
秘書	2	2	55	40
ビジネス文書	2	2	27	19
ビジネス実務マナー	1	2	16	10
サービス接遇	2	2	58	13
合計	7	8	156	82

(団体)

検定	文部科学大臣賞	団体優秀賞	感謝状贈呈
秘書	3	40	51
ビジネス文書	3	7	10
ビジネス実務マナー	3	5	5
サービス接遇	3	30	23
合計	12	82	89

【収益事業（収1）】

以下の通り、実務技能検定に関する問題著作権の提供等を行った。

- （1） 早稲田教育出版に対し、ビジネス系検定実問題著作権の提供およびビジネス系検定受験参考書の監修を行った。
- （2） （株）ユーキャンに対し、秘書検定実問題1回分およびサービス接遇検定実問題1回分の著作権を提供した。